

薬剤師を目指す学生にとって、国家試験を約2カ月後に控えたこの時期の過ごし方は重要だ。しかし、試験対策が思ったほど進まず、何をどのように勉強したらいいのか、あせったり、悩んだりしている学生もいるのでは。できることが限られる状況下では、過去問題を抑えたと共に、模擬試験で苦手分野を洗い出し、足りない部分を補うなど、得点アップに直結する対策が効果的だ。また、日本薬

局方をはじめ、薬事法、感染症法などの改正ポイントを網羅しておく必要もある。木暮喜久子氏(医学アカデミー薬学ゼミナール)に国家試験直前までにやるべきことを聞いた。

多忙な時期に集中して過ごすコツ

過去問と模擬試験で得点アップ

新たに施行された法律の改正点にも注意

環境の変化が「出題」に反映

薬学教育6年制では、チーム医療の一員として臨床能力を持った薬剤師の育成が求められている。そのため、第91、92回の国家試験では、医療を意識した問題が徐々に増えており、難易度も上がってきているという。

国家試験では、遺伝子治療や分子標的薬などのポストゲノムに関する問題をはじめ、地域医療や介護支援、後発医薬品、食品安全など、薬剤師を取り巻く環境の変化を視野に入れたテーマが増えつつある。

また、最近の特徴として、検査値や病歴などから適切な薬剤の選択、投与方法、服薬指導などを問う総合問題、病院や保険薬局での実務実習の成果を問う設問が多い。このほか、有機化学の問題中に薬理学や生化学の知識を問う「科目の壁を越えた複合問題」や、治験コーディネーターなどの新しい職種に関連する問題も増えており、基礎と医学を網羅していないと解けない問題が増えているのが現状だ。

大切な改正法の確認

「現場」意識した出題

2006年4月に第15改正日本局方が施行されたことを受け、前回の国家試験では医薬品名が改正された日本名で出題されている。日本名と共に、改正ポイントを抑えておく必要がある。また、昨年改正された薬事法、感染症法、薬剤師法なども、理解しておいた方がいい。3月の試験では改正点が多く出題される



医学アカデミー薬学ゼミナール

木暮 喜久子氏に聞く

ことが予想されるためだ。

これまで、新しい法律は施行後1年を経ないと改正部分は出題されないことが多かったが、昨年の国試から状況が変わった。試験に合格したら薬剤師としてすぐに現場で働くことになるため、「抑えておくべき事項」として、出題されるようになっている。

約20%は過去10年分

出題傾向把握に重要

試験までの短い期間では、効果的かつ効率的な対策が必要になる。そこでキーワードとなるのが、「過去問」と「模擬試験」だ。国家試験の約20%は過去10年分の過去問から出題されるというデータもある。過去問を抑えていれば解ける問題があったり、出題傾向を

つかむのにも役立つため、この時期の対策としては効果的だ。

実際、前回の国家試験でも過去問ベースの問題が150も出題されており、特に出題頻度の高い5～8年分は「必ず解いておいた方がいい」という。

また、模擬試験を受けて苦手な科目・項目を把握することも大事だ。国家試験には「足切り」があるため、苦手だからといって「捨てる」わけにもいかない。苦手科目の判断基準は、模擬試験で60%の人が解けたのに、解けなかった分野と考えていい。苦手科目を勉強し直すには時間がかかるが、その中でも特に苦手な部分に絞ることで、効率化を図ることができる。そのため、取り組み次第では十分得点源になり得る。

さらに、国家試験直前の模擬試験は、ほとんどの人が受けるため、自分がどの位置にいて、合格ラインに到達するためにはどの分野をどう勉強すべきかが明らかになり、対策が立てやすくなるというメリットもある。

木暮氏は、「苦手だからといって一から勉強する必要はなく、割り切って、よく出題される重要項目だけを繰り返し勉強した方がいい」と話す。

暗記の要素が多く、出題頻度が高い科目の勉強も大事だ。有機化学や物理化学などは苦手な人が多いが、基礎学力を必要とするため、時間をかけて勉強しても飛躍的な得点アップにつながることは想定しにくい。

そこで、薬事関係法規・制度、衛生薬学、製剤学などの暗記することが多い科目、機能形態学や薬理学などのように、過去問でも多く出題されている科目を勉強すると、より効率的だ。

就職試験～卒業試験～国試へと続くロードマップ

ACRONET

<http://www.acronet.jp/>
人財開発および臨床ITに強いCRO

ACRONETは「医薬品企業のベストパートナー」を目指しています。

医薬品企業の臨床開発における課題(「スピード」「クオリティ」「セーフティ」)解決を提案できる専門家集団を目指しています。また、顧客から「依頼してよかった」と愛され、従業員からACRONETで働いていることを「誇りに思える」ヒューマンカンパニーを展開していきます。

Fルサービスが提供できる真の「総合CRO」を目指しています。

臨床試験支援業務のフルサービスを提供。かつ臨床ITを駆使して「専門性」「コンサルティングスキル」「グローバル化に対応できる能力」を有し、顧客に対して高品質(＝受託業務の確実な履行だけでなく、新たな付加価値を提案)な成果が提供できるような総合CROを目指しています。

CRO業界の「オンリーワン企業」を目指しています。

当社でしか実現できず、他の追随を許さない「これぞACRONET」といわれる項目を下記3点で設定。各々でトップを目指していきます。【1.多様性のある優秀な人財の輩出率、2.臨床ITコンサルティング力、3.高品質の成果提供と顧客リピート率】

日本CRO協会正会員 伊藤忠商事グループ企業

株式会社ACRONET

〒112-0002 東京都文京区小石川1-3-25

TEL: 03-3830-1135 FAX: 03-3830-1777

URL: <http://www.acronet.jp/>



企業概要

- 設立/2003年7月1日
- 資本金/1億円
- 代表者/堀松 尚
- 売上高/14億円
- 従業員数/200名
- 事業内容/モニタリング業務、データマネジメント、統計解析、臨床システム、薬事コンサルティング、教育研修
- 事業所/東京本社、大阪オフィス

待遇と勤務

- 初任給/大卒201,000円 修士220,300円 ※2007年度実績
- 諸手当/通勤手当・時間外手当・出張手当
- 昇給/年1回
- 賞与/年3回
- 勤務時間/9:00～17:15 ※フレックス制度有
- 福利厚生/社会保険完備・退職金制度・会員制福利厚生施設
- お問い合わせ先
- 人材開発部 採用担当(recruit@acronet.jp)